

20 孤独・孤立による人権課題の深刻化

【コラム】人と人がつながり合う社会をめざして

望まない「孤独・孤立」の状態にあり、生きづらさを抱えながらも「助けて」と言えない人たちがいます。「孤独・孤立」には、家族や集団、制度や社会的役割からの孤立など、様々なケースがあり、最悪の場合、「自殺」の引き金、「孤独死」の要因になってしまうこともあります。

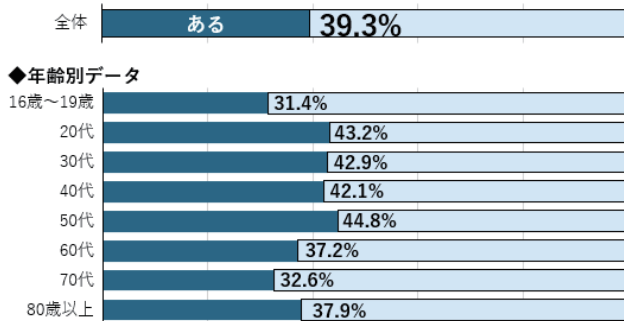
「孤独・孤立」は、人生のあらゆる場面で誰にでも起こり得るもので、社会全体で対応しなければならぬ問題です。

現代社会では、人と人が寄り添い、支え合うことが難しくなっており、この「孤独・孤立」が大きな課題としてクローズアップされています。近年、家族間の関わり、地域との関わりが希薄になり、職場では、働き方が多様化しています。「孤独・孤立」となる大きな原因の一つは、このような家庭や地域、職場における「環境の変化」だと言われています。

とっとり市報（2023.4 No.1152）「特集 ひとりぼっちをつくらない！地域社会の創造を目指す」を参考に編集

「孤独であると感じることがありますか」

約40%が孤独を感じたことがあります。



孤独を感じることは 誰にでも起こりえます

内閣府が行った調査によると、孤独であると感じることが「ある」と答えた方が約40%という結果が出ています。

これは多くの人が孤独に悩んでいるということ。決して他人事ではありません。



内閣府「人々のつながりに関する基礎調査(令和6年)調査報告書」(https://www.cao.go.jp/kodoku_koritsu/torikumi/zenkokuchousa/r6/pdf/tyosakekka_gaiyo.pdf)をもとに作成

孤独・孤立対策に向けた取組の例 (神奈川県内)

誰もが尊重される居場所づくり 認定NPO法人フリースペースたまりば

「川崎市子ども夢パーク」は、「川崎市子どもの権利に関する条例」に基づいて、2023年7月に設置された施設です。「夢パーク」を管理・運営しているのは、「認定NPO法人フリースペースたまりば」です。学校や家庭・地域の中に居場所を見出せない子どもや若者、その保護者とともに、一人ひとりが安心して過ごせる居場所をつくることを掲げ、子どもや若者たちが集う場をつくり続けています。

孤独・孤立になっても助けを求め
る声を上げやすい、声をかけやすい
社会をみんなで作っていくことが
大切です。



横浜市立横浜総合高等学校「ようこそカフェ」 公益財団法人よこはまユース

横浜市立横浜総合高校には、生徒が気軽に立ち寄れる校内居場所カフェ「ようこそカフェ」があります。これは、様々な事情を抱える生徒がリラックスできる場所を提供し、相談窓口としての役割も担っています。週に一度、水曜日にオープンしています。無料の軽食やお菓子を提供し、おしゃべり、勉強、相談など、生徒が自由に過ごせる場となっています。

地域の人々が交流できる「家庭の食卓の延長の ような食堂」 多世代食堂「おむすび」

大磯駅にほど近い住宅地にあるお寺・東光院。そのすぐ隣の戸建てに多世代食堂「おむすび」があります。子ども食堂や炊き出しのような、困っている人の支援とは異なり、地域の人々の交流の場を目指したユニークな食堂です。特徴は、調理は利用者たち自身が行うこと。子どもも高齢者も話をしながら一緒に調理して食事をすることで、地域の異世代交流の機会となっています。

<参考資料など>

・「さぼなびかながわ 取組紹介」神奈川県ウェブサイト 孤独・孤立対策ポータルサイト